

令和4年度  
施政方針



粕屋町

## 1. はじめに

---

本日、ここに令和4年度の予算案をはじめ、関係諸議案のご審議をお願いするにあたり、町政運営に関する所信の一端を申し上げますとともに、予算案及び重点施策の概要をご説明いたします。

はじめに、新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、医療従事者の方々をはじめ、長期にわたり感染拡大防止にたゆまぬご努力を続けておられます皆様へ、改めて心から敬意と感謝の意を表しますとともに、一日も早いコロナ禍の終息を願ってやみません。

去年は、新型コロナウイルス感染症が変異を繰り返しながら世界的に猛威を振るい、福岡県内においては、3回の緊急事態宣言が発令される事態となりました。本年に入ってから、オミクロン株の感染者が急激に増加し、連日過去最多の新規感染者数を記録するに至りました。

本町では、昨年5月からワクチンの集団接種を開始し、11月末には全町民の80パーセントを超える方が2回目の接種を終えられました。3回目の接種におきましても、国や県、医療機関と綿密に連携し、ワクチン接種の推進に迅速に対応しているところです。

また、「コロナに負けるなプロジェクト」では、商工会と連携し、地域経済の活性化や生活支援を目的として、「かすやエール商品券」など地域振興券の発行や、感染拡大防止にご協力をいただいている町民の皆様や、日夜医療現場で奮闘されている医療従事者の皆様へ、感謝の気持ちと感染終息の願いを込めた「かすやエール花火」を実施いたしました。

皆で助け合い、この難局を乗り越えていきたいと思っております。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

昨年9月にデジタル社会形成の司令塔として、デジタル庁が創設されました。デジタル時代の官民のインフラを今後5年間で一気呵成<sup>いっきかせい</sup>に作り上げることを目指しており、情報システムの標準化・共通化や行政手続のオンライン化など、自治体におけるDX<sup>※1</sup>が急ピッチで推し進められております。最先端のデジタル技術や新たな社会システムを取り入れた利便性や満足度の高い生活を実現しようとする潮流は、このコロナ禍を契機として確実に強まっており、社会情勢の変化を鋭敏に感じ取り想像力を働かせながら、従来の業務手法を変革していく姿勢が求められております。

---

※1 DX:Digital Transformation(デジタルトランスフォーメーション)の略でデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革することや、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすものこと。

また、政府は 2050 年におけるカーボンニュートラル<sup>※2</sup>を宣言し、エネルギー供給構造の変革だけでなく、産業構造、国民の暮らし、そして地域の在り方全般にわたる経済社会全体の大変革、いわゆるグリーン社会の実現に向けて、大胆な環境投資を進めることを打ち出しております。

イタリア・ルネサンス期を代表する芸術家、レオナルド・ダ・ヴィンチは「鉄は使わなければ錆びる。」と言っています。頭脳も肉体も使い続けないければ錆びて損なわれてしまう。ものごとは常に動き続けていることで新たな力を得ることができる。これは、朝礼で職員に訓示した話です。

長期化するコロナとの闘い、全国で度々猛威を振るう自然災害への対応、自治体 DX の推進、脱炭素社会の実現、人口5万人達成を見据えた自治体基盤の強化など、待ったなしの命題に対応していくために、全職員が一丸となってチャレンジし、イノベーションに挑戦してまいります。

---

※2 カーボンニュートラル:温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味し、政府は 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。

## 2. 令和4年度 予算案

---

それでは、令和4年度の予算案についてご説明いたします。

まず、歳入ですが、根幹となる町税収入について、本町においては新型コロナウイルス感染症の影響が小さい一方で、人口の伸びに伴う納税義務者の増加などにより、前年度から増収を見込んでいます。地方交付税や譲与税・交付金についても増加を見込むとともに、寄附金については、ふるさと納税の伸びが堅調であることから、大幅な増加を見込んでいます。その他、国庫支出金については、補助事業の増加により、町債については、個別施設計画に基づく公共施設の改修をはじめとする起債を活用した多数の事業を予定しているため、大幅に増加しております。また、本省繰越となる新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を計上しています。

一方、歳出については、ふるさと納税事業費の伸びなどにより、総務費が増加、中央保育所建替工事の実施や障がい福祉サービス事業費の伸びなどにより、民生費が増加、新型コロナウイルスワクチン接種事業や清掃センターの解体工事の実施などにより、衛生費が増加しています。また、教育費については、小学校の大規模改造工事や小中学校での校舎増築

工事の実施に加え、総合体育館の大規模改造工事の実施や学校給食費の公会計化などにより約 24 億 9,000 万円の大規模な増加となっています。

なお、財源不足を補うため、財政調整基金から 4 億 1,500 万円の繰入れを計上するとともに、ふるさとづくり寄附金の寄附者の意向を反映し、ふるさとづくり基金から 2 億 8,080 万円を繰り入れています。

予算規模については、

一般会計	208 億 8,800 万円
特別会計	69 億 9,342 万 6 千円
企業会計	41 億 2,772 万 7 千円
予算総額	320 億 915 万 3 千円

となっています。

これは、一般会計が、前年度比プラス 27.2%、44 億 6,200 万円の大規模な増加で、当初予算としては初めて 200 億円を超える予算規模となりました。特別会計と企業会計を合わせた総額では、前年度比プラス 17.3%、47 億 946 万 8 千円の増となります。

私が町長に就任して以来、中央保育所の建替えや清掃センターの解体の実施など、様々な課題の解決に努めるとともに、ふれあいバスの充実に取り組むなど、施策を着実に進めてきた一方で、税収やふるさとづくり寄附金等の自主財源の増加に努め、健全な財政運営を図ってまいりました。

令和4年度は私の任期最後の当初予算編成となります。創意工夫の下に財源の確保に努めるとともに、これまで同様、課題の解決や公約の実現に向けた取組に加え、新たにデジタル化推進事業に着手し、ウィズコロナに向けた動きを加速する施策を展開するための予算を計上するなど、コロナ克服後の将来の町の発展を見据えた予算を編成いたしました。

### 3. 町政運営の方針

---

それでは、公約に沿って、重点施策の概要についてご説明いたします。

#### 子育てしやすいまちづくり

---

中央保育所の建替えに伴い、昨年12月に保護者説明会を開催したところ、多くの貴重なご意見を頂きました。7月から工事に入る予定としておりますが、その間、園庭が使用できないことや、行事が制限されることなど、大変ご迷惑をおかけしますが、子どもたちの安全を第一に考え工事を進めてまいります。

また、西幼稚園の長寿命化改修工事や仲原小学校第3期及び粕屋中央小学校第2期大規模改造工事、粕屋中央小学校及び粕屋中学校校舎増築工事など、未来の粕屋町の子どもたちのため、より良い環境づくりを進めるための事業を精力的に実施します。

全国的な人口減少、少子高齢化が進む中、本町は一貫して高い出生率を維持していますが、今後も継続するためには、安心して子育てができる支援体制が必要です。近年の核家族化の進行などにより、産後に親等からの支援を受けられず、心身の不調や育児不安を抱える母親も少なくな



いため、産後ケア<sup>※3</sup>利用費を助成し、退院直後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行います。

### 住みやすいまちづくり

---

まちの中心に位置する長者原駅は、本町の中心拠点としての機能の充実を図るために基盤整備を進めます。令和4年度は雨天時や酷暑時の利用への配慮から、駅前広場にシェルターを整備します。

障がいのある方の外出機会を確保し、生活圏の拡大と社会参加の促進を図るため、これまでの福祉タクシー利用券をより用途が広がる交通系ICカードに切り替えて交付いたします。

2050年カーボンニュートラル実現のためには、再生可能エネルギーの拡充が課題となっています。地域における再生可能エネルギーポテンシャル及び将来のエネルギー消費量などを踏まえた導入目標や、目標を実現するための具体的施策等の検討を行い、粕屋町地域再エネ導入戦略を策定いたします。

---

<sup>※3</sup> 産後ケア：出産後、家族等から支援を受けることが難しく、かつ育児や体調に不安がある方を対象に、産科や助産院などでサポートすること。

## 誇れるまちづくり

---

阿恵官衙遺跡は、701年の大宝律令によって新たに行政の単位が設けられ、「評<sup>こおり</sup>」から「郡<sup>こおり</sup>」(現在「ぐん」と読んでいる漢字)に変更された当時の様子を伝える、糟屋郡のルーツと言える遺跡です。阿恵官衙遺跡保存活用計画に基づき、4つの将来像、「愛郷心<sup>あいきょうしん</sup>を育むシンボルとしての史跡」、「身近に歴史を学べる史跡」、「人が集い、にぎわう史跡」、「まちづくりと連携した史跡」を目指し、保存活用を推進します。

町のランドマークである駕与丁公園は本町の魅力の中心となる緑の拠点です。来訪者が多く訪れるバラ園では、夜間のライトアップを行い、さらなるバラの魅力をお楽しみいただきたいと思います。また、駐車場の確保と、駕与丁公園施設長寿命化計画に基づき改修工事を進めます。

## 安心して生活できるまちづくり

---

近年多発する豪雨による洪水氾濫に備えるため、仲原川(旧南里水路)の護岸改修・浚渫工事を行い、河川の治水対策を推進します。

水道の安定供給に向けて、耐震性を有する粕屋南配水池2号池築造工事や基幹管路の布設工事、老朽化した配水管の更新工事を行います。

次に、第5次粕屋町総合計画に掲げる4つのまちづくり基本目標に沿って、主要な事務事業の内容を申し上げます。令和4年度は合計 139 の事務事業の実施を予定しています。

*[基本目標1] つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち*

---

令和4年度は予算額 57 億 9,682 万 6 千円を計上し、39 事務事業の実施を予定しています。

- 子どもの安全を確保し、安全で安心なまちづくりを推進するため、通学路を中心とした町全域に IoT<sup>※4</sup>を活用した見守りネットワークを構築しました。今後は固定基地局の数を増設し、見守りサービスを拡充してまいります。
  
- 小学校の英語教育が必修化され、今後ますます進展するグローバル化に備え、国際社会で活躍できる人材の育成が進められております。生徒の学習意欲向上のため、これまで中学生を対象とした英語検定の助成を小学生にも拡大いたします。

---

※4 IoT(アイオーティ):Internet of Things の略で家電や自動車といった「モノ」をインターネットに接続する技術。

- 粕屋町総合体育館(かすやドーム)大規模改造工事を行い、利用者が安全にスポーツを親しむことができる環境づくりを進めます。

*[基本目標2] 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち*

---

令和4年度は予算額 38 億 1,835 万 6 千円を計上し、29 事務事業の実施を予定しています。

- デジタル技術や新技術の導入等による道路管理や行政手続の省力化・効率化に向けて、道路台帳システムの再構築に取り組みます。
- 粕屋町清掃センターの解体工事は煙突をはじめとする建築物の撤去が完了しました。引き続き、汚染土壌の除去工事を周辺環境の保全に充分配慮して実施します。
- 商工会と連携し、新型コロナウイルス感染症の流行によって影響を受けた家計の負担緩和や売上が減少した町内事業所の支援を行うため、プレミアム付商品券発行事業、かすやの送って“うれシート”事業を継続して実施します。

[基本目標3] 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち

---

令和4年度は予算額 150 億 4,690 万 2 千円を計上し、44 事務事業の実施を予定しています。

- 基本理念である「健やかで心豊かな町民であふれるまち」を目指して、令和6年度から 10 年間を実施期間とする健康かすや 21(第3期)計画の策定に着手いたします。
  
- 6歳までにほぼ完成する子どもの目の機能において、屈折異常や斜視などを早期に発見し、適切な時期に治療を開始することが重要です。3歳児健診での視覚スクリーニング<sup>※5</sup>の精度向上のため、視覚屈折検査機器を導入します。
  
- 町民一人ひとりがお互いの人権を尊重し、多様性が認められる社会を目指すことを目的として、性的マイノリティ<sup>※6</sup>や事実婚<sup>※7</sup>の関係にある方々をはじめ誰もが大切なパートナーや家族と共に自分らしく人生を

---

※5 視覚スクリーニング:短い時間で近視、遠視、乱視、斜視、不同視、瞳孔不同などの異常を見つけることが可能な測定機器を使う検査

※6 性的マイノリティ:同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のことをいい、LGBTとも呼ばれる。

※7 事実婚:法律婚と対になる婚姻関係の概念。婚姻届など一定の手続を踏まずに、両者が結婚の意思を有しており、共同生活を営んでいる場合をいう。

歩んでいけるよう支援していく、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の運用を開始します。

- 朝日団地の建替工事に着手し、安心して住み続けられるよう、住宅団地の再生を進めます。

#### [基本目標4] 健全で持続可能な行政経営をめざすまち

---

令和4年度は予算額 16 億 8,278 万 2 千円を計上し、27 事務事業の実施を予定しています。

- 地方からデジタルの実装を進め、新たな変革の波を起こし、地方と都市の差を縮め、世界とつながる、デジタル田園都市国家構想<sup>※8</sup>が示されました。デジタル技術を活用した「書かない・待たない」窓口を実現します。また、同時に窓口のキャッシュレス化を進め、来庁者の利便性の向上と業務の効率化を図ります。

---

※8 デジタル田園都市国家構想：2021年に岸田内閣の下で始動した構想で、地域の暮らしや社会、教育や研究開発、産業や経済をデジタル基盤の力により変革し、大都市の利便性と地域の豊かさを融合したデジタル田園都市を構築し、心ゆたかな暮らし(Well-being)と持続可能な環境・社会・経済(Sustainability)を実現する構想。

- デジタルファースト<sup>※9</sup>の実現に向けて、各種行政手続のオンライン化を進めます。また、デジタル活用における高齢者等の不安の解消に向けて、携帯ショップ等の専門の講師による相談型のスマホ相談窓口を開設します。スマホ端末の基本操作、簡単なアプリの使い方、マイナポイントの申請方法など、気軽に聞ける場・学ぶことができる場を提供し、誰もがデジタル化の恩恵を受けられるよう、デジタル・ディバイド<sup>※10</sup>解消に取り組めます。
  
- 固定資産税等の4税目が eLTAX<sup>※11</sup>の対象税目として拡大することに伴い、地方税統一 QR コードを導入し、スマートフォンによる納税など、納税者の利便性向上を図ります。

以上、令和4年度の町政運営の方針を申し述べました。

---

※9 デジタルファースト:デジタル化を優先してビジネス活動に取り組む概念。デジタル手続法に定められる「行政のデジタル化に関する基本原則」のうち個々の手続・サービスが一貫してデジタルで完結すること。

※10 デジタル・ディバイド:インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。

※11 eLTAX(エルタックス):地方税ポータルシステムの呼称で、地方税における手続を、インターネットを利用して電子的に行うシステム。

## 4. おわりに

---

早いもので4年間の私の任期も残り6か月程となりました。この間、町民の皆様をはじめとして、各方面から賜りました厚いご支援とご協力に深く感謝いたします。

ウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据え、町民の皆様が将来に向けて夢や希望を抱き、10年先、20年先も、幸福感を実感できるまちづくりを目指してまいります。

町民の皆様、そして、ここにお集まりの議員各位におかれましては、なお一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、令和4年度の施政方針とさせていただきます。

令和4年2月

粕屋町長 箱田 彰